

国語

その①

漢字を各教科や日常生活の中で使うことができるようにしよう。

習った漢字をさまざまな文や文章の中で正しく使うことや、同音異義語に気を付けて書くことに課題が見られました。そこで本アイデア例では、積極的に辞書を活用し、授業の中で語彙を増やしたり、漢字の使い分けについて理解したりしていくための指導事例を紹介します。なお、本アイデア例は小学校第5学年を対象としています。

課題の見られた問題の概要と結果

小A7 伝国 5, 6年(1)ウ(ア)

小A7 (1) 正答率 34.6%(県)

問題 (お知らせの文章の中にある) 次の _____ 部のひらがなを漢字でいねいに書きましょう。

(1) 参加たいしょう

(○対象 ×対称 ×対象など)

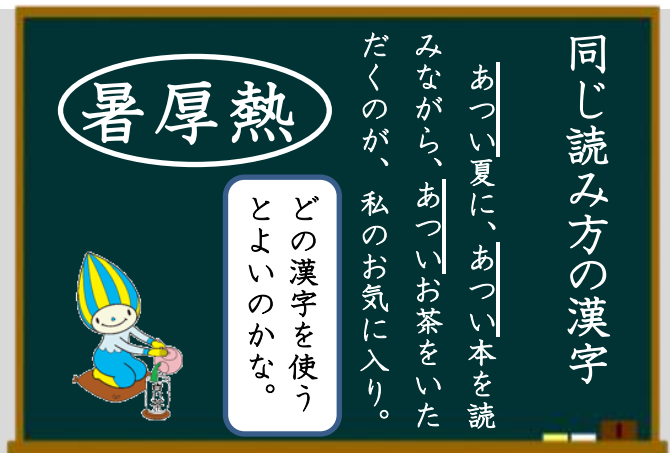
授業アイデア例

小学校第5学年 「同じ読み方の漢字」(12月頃)

積極的な辞書の活用で語彙の幅が広がります!



同訓異字や同音異義語を知ることは、語彙の幅を広げるチャンスです。その言葉に出会った時に積極的に辞書を使い、語彙の質と量を増す指導をしましょう。



漢字の意味調べ

「あつい」のそれぞれの意味を調べよう。どんな違いがあるのかな。

短文作り

三つの「あつい」を使って短い文章を作ってみよう。

言葉集め

同じ訓の漢字を他にも集めて、問題を作ってみよう。

国語辞典

ポイント

漢字指導は、繰り返し書くことも大切ですが、前後の文脈の関係を踏まえて、どの漢字を使うのが適切かを考えて書くことがより重要です。そのためにも、普段の生活の中で、適切な漢字を使うように指導しましょう。

定着状況の見届け

「どの子ども学プリ」の力だめしのプリントを使って、同訓異字や同音異義語のまとめをしておきましょう。

3年生書き力だめし①漢字の意味

4年生書き力だめし①ひらがなで書くと同じになる言葉

5年生書き力だめし①・②同じ読み方の漢字

6年生書き力だめし①・②同じ読み方の漢字

学プリ
力だめし

その他、関連した指導について

有効にご活用ください!

漢字指導の充実を図る
小学校・漢字
1,006字

どの子も学プリ

- 漢字の読み書きは、全ての学習の「できる・わかる」につながります。
- 漢字の読み書きは、読者の理解力、コミュニケーション能力を高め、日常生活を楽しめます。
- 漢字の読み書きは、様々な問題を解決する原動力に生かされ、幸せな未来を創ります。

平成29年2月 読書指導研究会 学校連携部

～漢字の習熟に一定の成果を出している学校は、こんな取組をしています～

- 「どの子ども学プリ」を使って、下学年の漢字の定着に努めています。
- 他の教科でも、辞書や事典を積極的に利用しています。
- 学習した漢字を使って短文を作ったり日記を書いたりする課題に取り組むなど、家庭学習を工夫しています。
- 帯学習や漢字検定制度を行うなど、学校ぐるみで取り組める活動を実施して、練習→確かめをひとつのサイクルとした継続した学習を進めています。
- 学校図書館を中心にした読書指導が充実しています。

国語 その②

交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりできるようにしよう。

自分の考えを広げたり深めたりする話し合いの中の発言の意図を捉えることに課題が見られました。そこで本アイデア例では、文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができるようにする指導事例を紹介します。なお、本アイデア例は小学校第4学年を対象としています。

課題の見られた問題の概要と結果

小B3 物語を読んで、感想を伝え合う（5、6年Cオ）

小B3 正答率 29.5%（県）

言語活動例

【第3学年及び第4学年】 C 読むこと
ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。

授業アイデア例

小学校第4学年 「プラタナスの木」（12月頃）

ポイント

聞く力を高めて交流を豊かに！

課題 「マーちゃん」たちは、「おじいさん」とまた会えるだろうか。
・自分の考えを理由といっしょに話そう。



Aさん

ぼくは会えると思うな。おじいさんはプラタナスが大好きだったから、プラタナスが芽を出せば会えるよ。



Bさん

ちょっといいかな。おじいさんとプラタナスって、どんなつながりがあるのかな。【ポイント①】



Cさん

プラタナスが切られて日かげがなくなってから、おじいさんが姿を見せなくなったよね。だから、おじいさんにとっては、気持ちが休まるものだったと思うよ。



Aさん

Cさんによくにているんだけど…「おじいさんは公園のできるずっと前からプラタナスのことを知っているみたいだ」ってあるよね。プラタナスが友達みたいになっていて、そばにいと安心できたんじゃないかな。【ポイント②】



Bさん

ぼくは別の考えなんだけど…「お父さんのふるさとには、木がいっぱいあるだろう。みんなによろしく」の「みんな」って、「木」のことだと思う。おじいさんはプラタナスの木の分身なんじゃないかな。【ポイント②】



Cさん

私やAさんは、おじいさんにとってプラタナスは安心できる友達みたいなもの、Bさんは、おじいさんがプラタナスの分身って考えたんだね。このことと課題をつなげて考えてみようよ。【ポイント③】

① 分からないことや確かめたいことを質問する。

② 自分の考えと比較しながら聞く。

③ 考えの同じところや違うところを整理しながら進める。

- ①、②…第3学年及び第4学年
「A話すこと・聞くこと」聞くこと（エ）
③…第3学年及び第4学年
「A話すこと・聞くこと」話し合うこと（オ）と関連させて指導しましょう。

定着状況の見届け

自分の考えと同じところや違うところを比べながら話したり聞いたりできているか、視点に沿って話し合っているか、子ども同士で評価し合える工夫をしましょう。一人一人の感じ方が違うことに気付くことができる学習過程があることで、作品を豊かに読み味わえた実感を持つことができます。

〔グループ発表・ノート等〕

その他、関連した指導について

- 低学年では、文章の内容と自分の経験とを結び付けながら、思いや考えをもつことができるようにすることが大切です。また、高学年では、それぞれに考えたことがどのように共通していたり相違したりしているのかなどを明らかにしながら、自分の考えを広げたり深めたりする学習過程があることが重要です。
- 考えを広げたり深めたりするためには、互いの違いを認め合う学級の雰囲気を作るとともに、自分の考えをまとめ伝えることの意義を、全教科・領域の指導を通して実感できるよう配慮することが大切です。

必要に応じて自ら言葉を選び、使うことができる言語活動にしよう。

事象や行為などを表す多様な語句について理解することや、適切な言葉を考えることに課題が見られました。そこで本アイデア例では、「書くこと」の指導において、言葉を「集めること」「比べること」「選ぶこと」によって生徒が主体的に言葉を使うことができる指導事例を紹介します。なお、本アイデア例は中学校第2学年を対象としています。

課題の見られた問題の概要と結果

中A 9 伝国 1年(1)イ(ウ)

中A 9五 正答率 33.8%(県)

問題(話し合い後の板書に) に適切な漢字を三字以内で書く。

2 登校時間に校門の前であいさつや呼びかけを行う。

再検討

授業アイデア例

中学校第2学年 「表現のしかたを工夫して書こう」(2月頃)

- 自分が体験した「心に残る出来事」を基にして、「ある日の自分」の一場面を400字程度の物語にして書くという言語活動を確立する。
- 自分が書きたい場面のあらすじと、伝えたい気持ちを考える。

■あらすじ(サッカー)

【場面】

ゲーム前(補欠だった自分が先発メンバーに)

・うれしい ・緊張

ゲーム前半(パスミスが続く)

・自信を無くす ・責任を感じる

【きっかけ】ハーフ・タイムのキャプテンの言葉「何一人でプレーしてるんだ。仲間を信じろ。」

ゲーム後半(パスがつながりだす)

・信頼感 ・充実感

【気持ち】

- 場面の様子や人物の気持ちなどの描写を工夫するために、グループで様々な例を考える。

(1) メンバー発表された時の周りの様子はどんなだったの。何か印象に残っていることはないかしら。【ポイント①②】

(2) とても緊張していたし、セミの声がとても響いていたよ。

(3) 緊張感と「セミの声」はつながると思うよ。

(4) うれしい気持ちはどうやって表すの。他の言葉を使った方がよいと思うけど、どうかな。【辞書使用】【ポイント③】



伝えたいことを読み手に生き生きと想像してもらえるように、

- 風景や天候など周囲の描写を工夫して人物の気持ちを表す。
- 人物の行動や様子の描写を工夫して気持ちを表す。
- 気持ちそのものを書く。
 - 辞書で引く、教科書292頁の「感情を表す言葉」を活用すること考えるとよいですよ。

ポイント

- ②③を踏まえて物語を書き、グループで意見や感想を伝え合う。

定着状況の見届け

②で考えていたことと④で書いた文章を読み比べて、よりよい表現となった箇所を明らかにし、生徒が自己の変容を自覚することができるようにしましょう。また、相互評価を行って、交流する中で得た仲間の素敵な表現を今後の自分の表現に生かせるようにするとよいです。



その他、関連した指導について

- 文学的な文章や和歌、俳句などの単元で学習した描写の工夫を普段から一覧にまとめておいたり、書くこと領域の単元に入る前に、普段の生活の中で興味をもった言葉や表現をメモしておくよう指示したりするなど、語彙の質や量を増す指導を継続的にいきましょう。
- 新たな言葉や表現技法を学んだら、必ず例文を考えるなど、自分で使ってみる活動を位置付けましょう。

国語 その④

対話を通して表現の特徴を吟味し、自分の考えに結ぶ言語活動にしよう。

表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことや、交流を通して自分の考えを広くすることに課題が見られました。そこで本アイデア例では、互いの見方や考え方を踏まえながら、自分のものの見方や考え方を広げていく指導事例を紹介します。なお、本アイデア例は中学校第1学年を対象としています。

課題の見られた問題の概要と結果

中B1 文学的な文章を読む（1年Cエ）

中B1三 正答率 44.0%（県）

言語活動例

【第2学年】 C 読むこと

ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。

授業アイデア例

中学校第1学年 「少年の日の思い出」（1月頃）

- 1 学習の課題に沿って文章を読み、感じたことや考えたことをノートに書く。
- 2 互いの考えを交流し、表現の特徴などについて吟味しながら読み、登場人物の心情の変化を捉える。
〔ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」を読んだ交流の例〕

学習の 課題

「僕」はどうして盗みを犯してしまったのだろう。～「僕」の心情の変化を読む～

ポイント

根拠となる表現を文章から引用して自分の考えを述べます。

普通だったら、「僕は斑点を見つめた」だけど、「不思議な斑点が」「僕を見つめた」と擬人法が使われているね。ここについてみんなで考えたいんだけど……。



ポイント

比喻を用いた表現については「誰（何）」が、「どのような」様子なのかを明確にします。

「斑点が」「見つめた」って書いてあると、クジャクヤママユが意思を持って「僕」を見ているように感じるね。クジャクヤママユの魅力に「僕」は捕らえられてしまったと思うよ。



ポイント

互いの考えの共通点や相違点を踏まえ、変化を交流します。

そうだね。〇〇さんが「魅力に捕らえられてしまった」と言ったけど、捕らえられてしまった「僕」には、もう周りのことは目に入らないんじゃないかな。17行目にあるように、最初は「せめて例のちょうが見たい」と思っていたのに、このことで冷静な判断力が失われていったんじゃないかな。



ポイント

異なる視点からの読みを付加するなどして、考えを広げ深める交流にします。

僕は別の表現と結び付けて考えたよ。この擬人法の少し後に、「この宝を手に入れたい」「逆らいがたい欲望」と書いてあるよね。斑点に見つめられた「僕」はすっかり虜になってしまって、「せめて」という希望や願いが何としてでも自分のものにしたいという「欲望」へと変化していったんだね。



- 3 交流した内容を踏まえ、自分の考えの広がりや深まりをノートに書きまとめる。

定着状況の見届け

授業終末に、自分の読み（考え）がどのように広がったり深まったりしたのかを確かめられるような書きまとめをしましょう。更にその内容をペアやグループで交流したり、教師が紹介したりして、一人一人に自己の変容の自覚を促すように意図することが大切です。〔発言・ノート等〕

その他、関連した指導について

- 文章の構成や展開、表現の特徴について、第1学年では「自分の考えをもつこと」、第2学年では「根拠を明確にして自分の考えをまとめること」、第3学年では「評価すること」を指導します。これらの観点を踏まえ、感じたことや考えたことを交流する学習活動を意図的に設定することが重要です。